P3-229 言語的妥当性を担保した日本語版 REVISED FIBROMYALIGIA IMPACT QUESTIONNAIRE(JFIQR)の作成

○磯村　達也[1,2], 中村　郁朗[3], 西岡　久寿樹[1]

[1]東京医科大学 医学総合研究所,
[2]株式会社 CLINICAL STUDY SUPPORT,
[3]医療法人社団 虎の門会 霞が関リウマチ治療研究所

【目的】REVISED FIBROMYALIGIA IMPACTQUESTIONNAIRE(FIQR)は，前身であるFIBROMYALIGIA IMPACT QUESTIONNAIREの欠点を改善する質問票として開発された. 今回, FIQRの日本への導入を目的として, 日本語版(JFIQR)を作成した.
【方法】原作者から許可を得た後, 言語的に妥当な翻訳版を作成する際に標準的に用いられる手順に従い, 日本語版を作成した(順翻訳→逆翻訳→パイロットテスト). 全ての段階で, 臨床医及び英語のネイティブスピーカーとの協議を行い, 原作版と日本語版の内容的な整合性を確認した.
【結果】(順翻訳)日本語を母国語とする2名の翻訳者が, それぞれ日本語に翻訳し, 一つの翻訳案にまとめた. (逆翻訳)英語を母国語とする翻訳者が英語に逆翻訳した. 次に, 臨床医及び英語のネイティブスピーカーとそれぞれ検討を行い, 日本語暫定版を作成した. (パイロットテスト)6名の線維筋痛症患者を対象に, 日本語暫定版の文章表現や質問内容の妥当性を検討するための面接調査を行った. 参加者の性別は女性5名, 男性1名, 平均年齢は51.7歳であった. 調査の結果, 全体としては, 表現や内容に特に問題はなく, 日本語版の質問票として問題ないとの意見が殆どであった.
【結論】一連の検討過程を経て, 言語的妥当性を担保したJFIQRを作成した.

利益相反：無